

実行プラン進捗状況

(令和7年度から実施、または実施前提で準備する取り組み)

柱1 郷づくり推進事業交付金のあり方

| 方策 | 具体的な方策 | 取組み内容 | 令和7年度 進捗状況 |
|---------------------|----------------------|---|--|
| 交付金の使途や会計処理ルール等の見直し | 「会計処理の留意事項」見直し | 交付金の使途について禁止事項を示した上で、協議会の裁量を拡大する。また、会計処理ルールを簡略化し、協議会の負担を軽減する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■会計処理の効率化に向けて作成した「エクセル会計簿」を今年度から3協議会が導入。さらに、協議会ごとのニーズに合わせて個別に改良したことで、使いやすさを高めることができた。 ■R7年度より別会計の導入を認めた。協議会内で会計上の整理がつけば、努力で得た収入を交付金会計と分けて運用することができるようになり、予算運用の幅を広げることができた。 ■あわせて、キッカケラボの助成金情報や助成金講座の案内など、財源確保に向けた情報を提供した。講座を機に、企業助成金の申請に至った協議会もある。 |
| | 余剰金の繰越上限額の見直し | 余剰金100万円の繰越上限額を緩和して、協議会の柔軟な予算運用を後押しする。 | <p>R7年度より、交付額規模に応じて、余剰金の繰越上限額を緩和したことで、予算運用の幅を広げることができた。</p> <p>交付額1,500万円まで → 上限額100万円 (2地域) 交付額1,500～2,000万円 → <u>上限額130万円 (4地域)</u> 交付額2,000万円～ → <u>上限額150万円 (2地域)</u></p> |
| | 積立制度の導入 | 単年度予算では実行が難しい事業費や備品購入費の積立制度を導入する。 | <p>R7年度より、高額備品の購入や記念事業の実施等を目的とする「積立制度」を導入した(上限200万円)。</p> <p>単年度会計では難しかった事業運営をできるようにした。</p> |
| 収益事業の解禁 | 事業開始に向けた情報(学びの機会)の提供 | 経理面の知識、人財確保、交付金の取扱いなどの課題を整理し、事業開始に向けた判断材料の情報提供や、収益事業に関する学びの機会を提供する。 | <p>【県補助事業】収益事業勉強会(基礎編・準備編)を実施。→→収益事業を始める上での心構えや、押さえておくポイントを学んだ。事業開始に向けて、おおまかな見通しを立てた。</p> |
| | 外部専門家の支援 | 外部専門家を活用して、収益事業導入・運営を支援する。 | R8年度より収益事業を開始予定。県補助事業を活用した勉強会の中で、講師等のアドバイスを受けながら実施協議会への支援を行う。 |
| | モデル地区の導入 | 事業実施を希望する協議会をモデル地区として先行支援を行い、その成果や課題を全協議会で共有する。 | R8年度は実施協議会の取組状況や問題点を全地域に共有する予定。皆で一緒に考えていくことで、他地域も始めやすい環境を作っていく。 |
| | 市事業等の委託 | 市と協議会との協議の中で市が外注する業務のうち、地域で行うことが効率的かつ効果的な事業を委託する。 | 事業委託に向けては対象事業と地域ニーズの把握が必要だが、実施には至っていない。地方自治法改正に伴う条例制定を伴うため、郷づくり推進条例制定と合わせて引き続き検討する予定。 |

**みんなで学ぼう！
収益事業勉強会**

～収益事業って？どう始めるの？をやさしく学べる～

- 基礎編 - **11/28** 金

まずは「収益事業ってなに？」からスタート！
基本の考え方をわかりやすく解説します。

時間 14:00～16:00
受付 13:30
会場 福津市役所 別館 大ホール

- 準備編 - **R8 1/16** 金

収益事業を行うために押さえておきたい、
法人格や税のことも事前にチェック！

時間 14:00～16:00
受付 13:30
会場 福津市立図書館 2階 研修室1

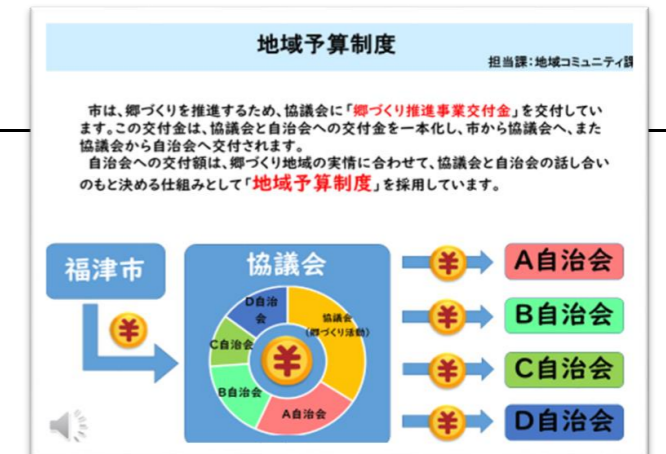
講師
 中村善輝氏
福津市未来共創センター
キッカケラボ ディレクター

実行プラン進捗状況

(令和7年度から実施、または実施前提で準備する取り組み)

柱1 郷づくり推進事業交付金のあり方

| 方策 | 具体的な方策 | 取組み内容 | 令和7年度 進捗状況 |
|-------------|---------------------|--|--|
| 積算方法の改定 | | 他自治体の事例等を情報収集し、限られた予算の中で地域間の公平性を保つような積算を行う。また、必要に応じて福津市共働推進会議の場を活用する。 | R7年8月より、協議会会長8名をメンバーとする「交付金見直し検討委員会」を開催し、算定方法の見直しに着手。R9年度からの新基準導入を目指して協議を重ねてきた。 しかし、12月26日付の市政方針を踏まえ、算定方法の見直しは一旦保留とし、R8年度交付予定額をR9年度まで据え置く方向で合意した。 R8年度末頃（R10年度予算要望に間に合うように）から検討委員会を再開し、R10年度以降の市の動向をもとに検討する予定。 |
| 事務局員給与の上限撤廃 | 本給の上限額撤廃 | 協議会が事務局員の能力や経験年数に応じて賃金を設定できるように、給与の上限を撤廃する。市は、県最低賃金の賃金動向をもとに時給の目安を示す。 | 実施済み。 市は会計年度任用職員1級6号級の時給を目安に交付金を交付。協議会の判断で、役職や経験年数などの実情に合わせて賃金を設定することができる。 |
| | 時間外手当の支給 | 時間外労働が発生する地域について、市は基準額を設定し、時間外手当相当額の交付金を交付する。その際、事務局員の業務を明確にした上で必要最低限の時間外労働となるように、協議会に業務量の整理を促す。 | 実施済み。 R7年度は4地域が導入し、R8年度はさらに1地域増える見込み。 時間外労働が多い地域にはヒアリングを行い、労働過多にならないように業務量の整理を促した。 |
| 地域予算制度の周知 | 地域予算制度の周知・成功事例の情報提供 | 協議会が制度を活かして予算配分できるように、市は制度の趣旨を周知する。また、予算配分の成功事例を情報提供する。 | <p>■R7年度の自治会長説明会で、地域予算制度に関する説明を追加し、交付金の目的や流れを周知した。 →→</p> <p>■交付金見直し検討委員会では、自治会への配分に関する各協議会の取り組みや問題点を情報交換した。</p> <p>制度の認知が進んだ実感はあまり得られていないが、継続的な周知が必要だと考えている。今後も機会を設けて周知や情報交換を行う予定。</p> |



実行プラン進捗状況

(令和7年度から実施、または実施前提で準備する取り組み)

柱2 郷づくり交流センター等の拠点のあり方

| 方策 | 具体的な方策 | 取り組み内容 | 令和7年度 進捗状況 |
|-------------|--------------------------|---|---|
| 貸出における制約の緩和 | 地域交流や活性化につながる利用への積極的な貸出し | 協議会と貸出ルールの認識合わせをした上で、貸出条件や利用方法についての制約を緩和する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■協議会から問合せが多かった貸出ルールについては「交流センター利用の手引き」を更新したり、事務局員会議でルールを共有するなどして、認識のズレが生じないようにした。 ■積極的な貸出しについては、協議会活動を優先させたいとの声が多かったため、制約緩和はしていない。 |
| | 申込手続きの簡略化 | 申請方法を簡略化したり、利用料金の支払い方法の選択肢を増やす。 | これまで自治会利用は、休館日利用のみ申請書提出を省略して電話受付を行っていたが、R7年度より全ての利用日に拡大。自治会の負担を軽減することができた。 |
| | 拠点の制約の緩和 | 地域のニーズに応じて、貸出要件の緩和（時間外利用、営利性がある利用）、開館時間の変更を行う。 | 1協議会からの申出を受け、R7年10月より、試行的に土曜日開館を実施中。今後、地域住民や利用者の声を参考に本格導入を検討する予定。 |
| 認知度向上の取り組み | 情報交換会の開催 | 情報交換会を開催し、拠点に立ち寄りたくなるような魅力的な活動事例の紹介や、拠点の認知度向上につながる取組みを共有する。 | あらためて情報交換会は開催していないが、代表者会議や事務局員会議の場で随時、活動に関する情報交換を行った。 |
| | SNS等を活用した郷づくりイベントのPR | 市公式Facebook等を活用して郷づくりの取組みやイベントを発信する。 | R6年度に開設した地域コミュニティ課Instagramで、R7年度から研修職員（入庁5～7年目）からの情報も掲載し、発信回数を増やした。次年度は、SNS発信について学ぶ機会を作る予定。 |
| | 拠点に来てもらえるような取組みの紹介 | 拠点に児童生徒やその保護者に来てもらえるような取組みの情報を提供する。 | 今年度は、福岡工業大学と連携して「課題解決型学習」として2地域に入り、拠点の活用方法や、働く世代とつながるアイデアを、学生目線から考える取組みをしている。2月に学生から提案してもらうため、他地域にも共有予定。 |



地域コミュニティ課Instagram




学生フィールドワークの様子

実行プラン進捗状況

(令和7年度から実施、または実施前提で準備する取り組み)





柱3 人財育成・つながりづくり

| 方策 | 具体的な方策 | 取り組み内容 | 令和7年度 進捗状況 |
|------------------|-----------------|---|---|
| 協議会のより良い運営のための支援 | 講座や意見交換会の開催 | 外部講師による講座、協議会同士の意見交換会、大学や地域住民を招いた意見交換会を実施し、多様な人たちが活躍できる運営の視点を学ぶ機会をつくる。 | <p>■講座の開催 【県補助事業】9/8スキルアップ講座「対話のコツを学ぼう！」を開催。 ↓↓ (参加者の声) ・実は対話ができなかったと反省した ・対話を通して、少しずつでも郷づくりの雰囲気が変わって いって、若い世代の人が関わりやすい環境になればいいなと思った。</p> <p>■事務局員会議 情報交換の機会を作り、取り組みのヒントになる情報を共有した。これを機に、参考資料を提供してくれる協議会もあり横展開できた。</p> <p>【テーマ】研修職員の活動内容／事務局員の業務／謝金の金額設定／会報の配布状況／自主防災組織の活動／定例会議の開催状況／高校生の関わり／登下校時の見守り</p>  |
| | 協議会主催の講座に対する支援 | 協議会が役員向けに組織体制や運営の視点に関する講座を開催できるように、講師紹介等の情報提供をする。 | 該当するケースはなかったが、協議会での会議などで気軽にミニ講座を取り入れてもらえるように、メニュー紹介をした。 |
| | 参画しやすい仕組みづくりの提案 | 時間設定、オンライン参加、業務のスリム化、限定的な関わり、子育て世代や現役世代がやりたいことを支える場づくり等、参画への入口を広げるための情報を提供する。 | <p>■事務局員会議でミニ講座を実施した。 ・人権政策課「ミニミニ人権研修」2回 「様々な世代の考え方」や「無意識の思い込み」について考える機会を作った。 ■内容に応じて課主催講座をオンライン配信。会場に来られない事務局員などにも参加してもらった（4地域が活用）。</p> |
| 先進事例・統計データ等の情報提供 | | 地域活動の参考情報として、他自治体や他協議会の先進事例や市が保有する統計情報を提供する。 | <p>■情報提供 市民意識調査集計結果（R7年2月実施分）／地域づくりネットワーク福岡県協議会の事業</p> <p>■地域コミュニティに関する講演会 案内 福岡県「地域コミュニティ活性化研修会」／総務省「地域運営組織全国セミナー」</p> |

実行プラン進捗状況

(令和7年度から実施、または実施前提で準備する取り組み)

柱3 人財育成・つながりづくり

| 方策 | 具体的な方策 | 取組み内容 | 令和7年度 進捗状況 |
|-----------------------|---------------------------|--|--|
| キッカケラボの事業の活用 ※継続実施 | キッカケラボ主催の講座や交流会等への参加を促す | キッカケラボの活用方法を知ってもらうとともに、多様な人や団体とつながる機会として、キッカケラボ主催の講座や交流会等の情報を協議会へ提供し参加を促す。 | 講座や交流会等の情報を以下機会を通じて提供した。 【手段】 ①郷づくり代表者会議 ②郷づくり事務局員会議 ③キッカケラボスタッフによる郷づくり拠点訪問 【案内事項】 プロジェクトレポートや事例を用いたキッカケラボの紹介/講座等の案内（市民活動の促進に向けた基本講座、地域デビュー講座、SDGsのキッカフェ等）   A: 2022年-2024年の取り組みをまとめたレポート B: 志縁活動者以外にも、郷づくり事務局員、自治会役員が参加した |
| | 地域活動に関する団体やイベント等の情報の提供 | キッカケラボに登録されている団体情報や、キッカケラボが把握しているイベント等の情報を定期的に協議会へ提供する。 | キッカケラボに登録している団体情報等を以下機会を通じて提供した。 【手段】 ①郷づくり代表者会議 ②郷づくり事務局員会議 ③郷づくり拠点へのチラシ等加配 【案内事項】 登録団体一覧/登録団体活動情報/助成金一覧 等  C: 場づくりファシリテーター実践塾バースクールは今年度4期目。郷づくり事務局員の受講は初めてとなった。郷づくり事務局員がメンバーとなったチームでの場づくりの実践は、郷づくり拠点で実施された。 D |
| | コネクターとの相談連携 | 市が協議会から相談を受けた内容等について、必要に応じてコネクターと相談連携しながら対応する。 | 【手段】 コネクターがキッカケラボ窓口、電話、メール、郷づくり拠点への訪問等で随時対応した。 【対応例】 協議会側から防災事業の企画や運営体制について相談を受け、コネクターが伴走支援  |
| | 地域活動に関心のある人財と協議会をつなぐ機会の提供 | キッカケラボの事業を通じて地域活動に関心を持つ人と協議会とを、双方の希望に応じてマッチングする。 | 【手段】 地域に関心がある人や協議会からの相談に基づいて、双方をつなぐ機会を提供した。 【対応例】 ・1日お試しプログラム「ふくつたいけんプログラム」で協議会活動の体験機会を提供 ・キッカケラボ主催講座参加者の協議会活動へのマッチング ・協議会から相談を受け、協議会事業へ高校生や企業の参画機会を提供 D: 市民活動や市内で活躍する人の日常を1日お試しできるプログラム。2026年1月現在、24プログラム（うち、郷づくり関係は5）。 |

実行プラン進捗状況

(令和7年度から実施、または実施前提で準備する取り組み)

柱4 市の関わり方

| 方策 | 具体的な方策 | 取り組み内容 | 令和7年度 進捗状況 |
|----------------|----------------|---|---|
| 郷づくりを推進する条例の制定 | | 郷づくり推進に特化した条例を制定する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・10/17 条例制定に向けたワークショップを開催し、条例に入れたい内容などを出し合った。 ・12/1 代表者会議でワークショップの報告、情報交換協議会や共働推進会議から出た意見を整理し、素案イメージを作成した。 |
| 対話の場づくり | 代表者会議のあり方の見直し | 各協議会の意見を聴きながら、設置要綱に規定する活動内容や選出委員のあり方などを検討した上で、必要な見直しを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ■代表者会議の場が共働して郷づくりをすすめるための前向きな場となるよう、会議の中で認識合わせを行った。今年度はテーマを決めた情報交換を行わなかったが、郷づくり推進条例制定・郷づくり基本構想見直し・交付金の算定方法見直しを通して、例年より多く話し合う機会を作ることができた。 ■発言権がない事務局員の参加は任意へ。希望があればオンライン参加も可能にし、事務局員の負担を減らした。 ■今後、郷づくり推進条例制定と合わせて、代表者会議設置要綱の内容も整理する予定。 |
| | 第三者機関を活用した場の設定 | 共働推進会議の場を活用して、協議会からの要求や意見を集め、市に伝えたり解決策を考える仕組みをつくる。 | 共働推進会議の場を活用して、10/17郷づくり推進条例制定に向けたワークショップを開催した。 |
| | 未来志向な場の設定 | 協議会と市との未来志向な対話の場をつくり、課題解決に向けて一緒に考える機会を持つ（年1回）。 | 協議会会長と市長で、市政や郷づくりの未来について語り合う懇談会を実施した（2回）。 |
| | 協議会同士のつながりづくり | 取り組み自慢大会、活動分野ごとの実践交流会、拠点見学会を開催し、良いところや課題を共有し合い、横のつながりを促進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■交付金検討委員会や事務局員会議を拠点で開催し、他地域の拠点に触れてもらう機会を作った。 ■各種講座の機会が、協議会同士が情報共有する場にもつながった。→→ |
| 職員の学び直し | | 職員が郷づくりや地域への伴走支援について理解を深めるため、経験年数の節目ごとの職員研修を実施したり、活動者の声を聴く機会を設ける。 | R7年度新規採用職員の研修メニューに「郷づくり」を組み入れ、配属先に関わらず郷づくりへの理解を深める機会を設けた。 |

**明日から使える！
スキルアップ講座**

～会議も広報も、ちょっとした工夫でぐんと良くなる！～

対話のコツを学ぼう！ 9/8 月

話し方をちょっと工夫するだけで、会議がスムーズに！そのコツを学びます。

■時間 14:00～16:30
講師 山口寛氏
■受付 13:30
■会場 ふくとびあ (福津市健康福祉総合センター) 3階 らくらくルーム

津野崎プランチ代表 LOCAL&DESIGN 株式会社 代表取締役

見てもらえる広報って？ 12/22 月

作った広報紙、もっと見てもらいたい！見たくなる紙面づくりのヒントを学びます。

■時間 14:00～16:00
講師 中村善輝氏
■受付 13:30
■会場 福津市役所 別館 大ホール

福津市未来共創センター キックケラボ ディレクター

実行プラン進捗状況

(令和7年度から実施、または実施前提で準備する取り組み)

柱4 市の関わり方

| 方策 | 具体的な方策 | 取り組み内容 | 令和7年度 進捗状況 |
|-----------------|---------------|---|---|
| 地域に関わる職員の役割の明確化 | 地域担当職員の役割の明確化 | 地域と市で協定を結ぶことなどを含めて検討し、職員の役割を明確にして共有する。 | 具体的な役割の明確化には至っていない。条例制定に向けた協議会へのヒアリングやワークショップの中で、職員の関わり方に関する多くの声を聞いたので、今後庁内協議の中で役割を整理していく予定。 |
| | 研修職員の役割の明確化 | 研修目的をより明確にするとともに、研修期間終了後の地域との関わりを継続する支援のしくみをつくる。 | 具体的な役割の明確化には至っていない。条例制定に向けた協議会へのヒアリングやワークショップの中で、職員の関わり方に関する多くの声を聞いたので、今後庁内協議の中で役割を整理していく予定。 |
| 外部アドバイザーの活用 | | 外部アドバイザーを活用して、地域課題の解決方法、地域の人財確保や育成について、専門的なアドバイスを協議会が得られる機会を提供する。 | 県などのアドバイザー制度は活用していないが、市主催講座を通して講師からアドバイスを得られた。 |
| 郷づくりガイドブックの作成 | | 郷づくりの活動の参考に、郷づくりの変遷や、各地域が実践した取り組みをまとめたガイドブックを作成する。 | R7年度は、“小学生にも分かりやすく”をテーマに、「郷づくりパンフレット」を作成した。→→作成にあたり、地域の窓口となる事務局員の声を取り入れた。小学校に配布するなどして活用している地域もある。 |

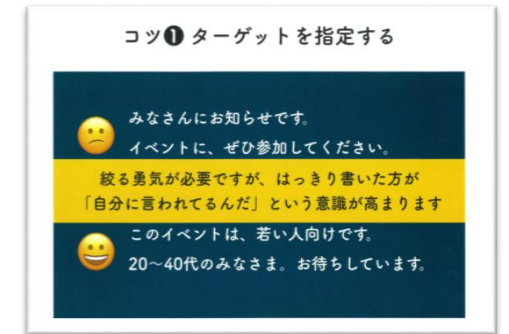


実行プラン進捗状況

(令和7年度から実施、または実施前提で準備する取り組み)

柱5 その他

| 方策 | 具体的な方策 | 取り組み内容 | 令和7年度 進捗状況 |
|--------------------|-----------------------------------|---|---|
| SNSの利用促進等、PRツールの増設 | 講座や意見交換会の開催 | 講師を招き、見てもらえる広報の作成方法を学ぶ講座の開催や、各協議会のSNS活用の取り組みを紹介し合う意見交換会を開催する。 | <p>【県補助事業】12/22スキルアップ講座「見てもらえる広報って？」を開催。紙面づくりのヒントを学ぶ機会を設けた。 →→</p> <p>(参加者の声)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作り手ではなく、受け手の気持ちに寄り添った紙面作りが大切だと分かった。 ・広報の目的は「情報を伝えるため」ではなく「誰かの行動を変えるため」と聞いて、ハッとさせられた。 ・今後工夫できるポイントが見つかった。 |
| | 郷づくりに関するPRツールの増設 | 「郷づくり」の内容を分かりやすくまとめた、手に取りやすいパンフレットを作成する。また、イベント時に郷づくりのPR機会を提供する。 | <ul style="list-style-type: none"> ■小学生でも分かりやすい「郷づくりパンフレット」を作成した。(再掲) ■「広報ふくつ」の活用 ・裏表紙での郷づくりの活動分野ごとのPRを行った(年3回)。 ・3月号に「郷づくり特集」を掲載予定。 |
| 自治会の負担軽減策の提案 | | 役割分担の見直し、イベントや会議の統合、限定的な関わり、子育て・現役世代のやりたいことを支える場づくり等の情報を提供する。また、市からの案内や依頼量を把握し、見直す。 | <ul style="list-style-type: none"> ■自治会長から地域コミュニティ課への連絡や要望書提出のメール受付を本格開始し、自治会長の負担軽減につなげた(約半数の自治会が活用)。 ■R7年度より、自治会長説明会で自治会の負担軽減策に関する提案を追加した。 ■市から自治会及び協議会への依頼業務量軽減に向けて業務量調査中。 |
| 全市的な自治会加入促進 | 自治会の必要性・活動内容・加入への窓口を知ってもらう取り組みの実施 | 市HPや自治会加入促進チラシの内容等の見直しに加え、市公式LINEや市広報紙等を活用して、自治会加入促進を支援する。 | 市役所本館の待合ロビーのモニターで、市民に「自治会案内」を見てもらえるように準備中。 |
| | 自治会に対する情報提供 | 自治会運営上の課題や相談を受けた内容等をもとに、他自治体の事例や対応策の情報を提供する。 | R7年度より、自治会長説明会で自治会の負担軽減策に関する提案を追加した。そのほか、窓口、電話、メール等で随時対応している。 |
| | 外部講師による講座の開催 | 外部講師を招き、持続可能な自治会運営や若い世代の自治会加入促進策等について学べる講座を開催する。 | <p>【県補助事業】11/30「聞いて、語って、見えてくる？自治会ワークショップ」を開催。「自治会あるある」「自治会活動で得たもの」などを皆で語り合い、自治会の可能性や役割を楽しく考える場を設けた。</p> <p>(参加者の声)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のやっていることに少し自信が持てた。 ・他地域の取り組みが参考になった。 ・悩みを共有できた。これから問題解消になるか…まだ見えていないが、来年も参加したい。 |



スキルアップ講座「見てもらえる広報って？」



広報ふくつ 裏表紙



聞いて、語って、見えてくる！？自治会ワークショップ

